

国土地理院コンプライアンス・アドバイザリー委員会議事概要

1. 日 時 令和6年3月12日(火) 15:00~17:00  
 2. 場 所 国土地理院 大会議室  
 3. 委 員 委員長 平沢 照雄 筑波大学人文社会系教授  
 委員長代理 松沼 和弘 弁護士  
 委員 村上 正子 名古屋大学大学院法学研究科教授

4. 議事概要

(1) 審議事項

- ① 令和5年度国土地理院コンプライアンス報告書(案)について  
 ② 令和6年度国土地理院コンプライアンス推進計画(案)について

(2) 委員からの主な意見等

意見・質問	回 答
<p>①令和5年度国土地理院コンプライアンス報告書(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コンプライアンス意識及び取組に関するアンケート調査は、今年度初めて実施したのか。</li> <li>● 調査結果をみると、コンプライアンスに対する取組に負担を感じている者がどの項目にも少数だが存在する。何処が問題か更に個別調査を実施すると負担に感じる者が限りなくゼロに近づいていくのではないか。少数派の意見も取り上げ負担を減らす工夫をしていただきたい。どのような点が具体的に負担かは、自由記述欄を付け加えることで把握することができるのではないか。</li> <li>● アンケート調査は良い取組である。ネガティブな意見を軽視せず吸い上げるというコンセプトも良い。デジタルツールを有効活用し、負担を軽減しながら、今後も実施していただきたい。</li> <li>● ハラスメント防止に関して、「相談しやすい体制の整備に努める」とあるが、どのような体制か。相談件数はどれぐらいか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 過去の委員会において、アンケート調査などにより取組を検証しては如何かのご意見を踏まえ、初めて実施した。</li> <li>● ネガティブな意見も回答しやすいよう、無記名とした上で、負担に感じている理由などを自由記述できる仕様で実施した。定期的に「国土交通省文書整理月間」、「国家公務員倫理月間」、「国家公務員ハラスメント防止週間」などの取組が集中して負担と感じるといった意見以外に特段の意見は無かった。</li> <li>● 入札談合や国家公務員のハラスメント事案等が発生した都度、コンプライアンス・公務員倫理・ハラスメント各々の再発防止対応が増加してきた。その一方で、コロナ禍で簡単に実施できるオンライン研修の機会が増えた実態もある。今後は負担が少ないやり方を模索していきたい。</li> <li>● 各職場に苦情相談員という相談窓口を設け、セクハラ、妊娠・出産・育児又は介護に関するハラスメント等について、相談で</li> </ul>

意見・質問	回 答
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 相談が無いから良い職場なのか。相談しづらい環境にあるということはないのか。通報窓口は外部にもあるのか。</li>   <li>● 今回のアンケートは Forms を利用したとのことだが、国土地理院で行われているアンケート調査は Forms に統一されているのか。</li> </ul>	<p>きる環境を整えている。人事課にも相談窓口を設けている。今年度の相談は無かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人事評価に係る所属長との面談のほか、身上の調査時にも面談をしており、機会を通じて、仕事の悩みやハラスメントなどの職場の問題点などを相談できる環境を整えている。また、人事院にも相談窓口があることを職員に周知している。</li>   <li>● 集約する職員を通さないため、正直な意見が出しやすくなるので、当院のアンケート調査はFormsで実施している。集計する職員の作業が自動化され、効率化が図れるメリットもある。</li> </ul>
<p><b>②令和6年度国土地理院コンプライアンス推進計画（案）について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「多様な働き方」とは、テレワークなどというのか。利用者は多いのか。</li>   <li>● 個人情報漏洩防止対策の自己点検は取り組みとして評価できるが、具体的にどのような形で実施したのか。負担が増えることはないのか。</li>   <li>● 意識調査アンケートについては、今後、ある程度の間隔で実施するとのことだが、きちんと引き継がれるよう申し送りしていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● テレワークのほかに、フレックスタイム制を活用して勤務時間を早めたり遅くしたり、子育て中の職員が休憩時間を短縮して早めに帰宅するなど、職員のワークスタイルに合わせた勤務形態があり、多くの職員が利用している。</li>   <li>● メール送信の際のチェックポイントをまとめたリストを新たに作成し、職員が自ら点検する形で実施した。要する時間は 10 分程度である。</li>   <li>● 承知した。</li> </ul>